分野	51	脱炭素	通番 99
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
地球温暖化対策（COOL CHOICE）推進事業	一般	4	1	8	33,020,247	環境政策室

事業の概要

2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、気候変動の「緩和策」の両輪とされる、「省エネ」の推進と「再エネ」の普及を一層進めます。そのため、市民が行うCOOL CHOICEへの経済的支援を行うとともに、事業者等との連携を強化し、各主体一丸となって脱炭素化を進めていきます。また、多少の気温上昇が避けられないとされる未来の市民のくらしを守るため、啓発をはじめとして「適応策」を進めます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		COOL CHOICEの実践を対象とする補助金の利用件数				単位	件
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
572（令和2年10月末）	目標	587	602	617	632	647	
	実績	598	676	792	870	1,280	

・婚姻届を提出された方に、地元事業者から寄贈頂いた堆肥化可能な生地で作られたタオルの配布や、「ホタル観賞の夕べ」において来場者向けに発電実験器の体験を行い、資源循環と省エネについて啓発を行いました。
・従来の補助メニュー（83件）に加え、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、臨時的に事業者向けLED化促進（88件）、省エネ家電（エアコン、冷蔵庫）購入（239件）の補助を行ったため、利用件数が大幅に増加しています。

堆肥化可能な生地で作られたタオル

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	温室効果ガス排出量	温室効果ガス排出量は、経済活動のほか、電気の排出係数（発電するのにどれだけのCO_2を排出するか。）に大きく左右されるため、電気の排出係数の増減に近い動きとなっています。平成29年度の数値が前年度より大きく下がっているのは、排出量算定に用いる統計数値の推計方法の変更が大きな要因です。	44

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・各補助メニューの交付実績は、薪ストーブの設置補助1件（100,000円）、住宅窓の断熱改修補助20件（785,000円）、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助：FIT26件（3,549,000円）、次世代自動車の導入補助23件（2,300,000円）、家庭用燃料電池システムの設置補助9件（450,000円）、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助：非FIT2件（540,000円）、太陽光発電設備と蓄電設備他3点同時設置補助：FIT2件（430,000円）事業者向けLED化促進補助88件（19,216,017円）、省エネ家電（エアコン、冷蔵庫）購入補助で239件（4,780,000円）でした。

課題等	・COOL CHOICE実践補助金は、CO_2削減だけでなく、再生可能エネルギーの利用、災害対策の効果的なメニューもあるため、引き続き制度の周知が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・COOL CHOICE実践補助金の対象としている設備は、後年度にわたりCO_2排出を抑制する効果をもたらすことから、補助金の利用件数が年々増加していることは、脱炭素化への啓発及び適応策の推進につながっています。
・令和7年度に臨時的な補助メニューがありましたが、各年度で目標を達成していたことは、市民の当該事業への関心の高さを示すものです。
・今後、脱炭素社会の推進を継続するためには、気候変動や環境問題を市民がより身近に感じられるような周知・啓発が求められます。

分野	51	脱炭素	通番 100
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
公共空間のゼロカーボン化推進	－	－	－	－	－	環境政策室

事業の概要

省エネ仕様への更新や再生可能エネルギーの導入を積極的に進め、施設の特性を踏まえながら、施設で使う電気のゼロカーボン化を進めるとともに、ZEBに関しても、計画段階から実現可能性を検討し、事業を進めていきます。ZEBでない場合においても、環境性能に関する評価を持つ指標を意識するほか、雨水や井戸水、木材の利用など、総合的な環境性能に配慮した整備を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	ゼロカーボン化に類する公共空間の累積数 ※ゼロカーボン化に類する公共空間には、ZEB READY・再エネ電気の導入施設等を含む。					単位	施設
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
0（令和3年度）	目標			1	2	2	
	実績			1	2	4	

・西山公園グリーンハウスにおいて、エネルギー削減率54パーセントを達成し、令和8年1月にZEB Readyの認証を受けました。
・長岡第三小学校は設計において、エネルギー削減率52パーセントを達成し、令和8年3月にZEB Readyの認証を受けました。

ZEB Ready認証

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
評価指標	温室効果ガス排出量	温室効果ガス排出量は、経済活動のほか、電気の排出係数（発電するのにどれだけのCO_2を排出するか。）に大きく左右されるため、電気の排出係数の増減に近い動きとなっています。平成29年度の数値が前年度より大きく下がっているのは、排出量算定に用いる統計数値の推計方法の変更が大きな要因です。	44

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・設計の段階から、公共施設のZEB化を検討した結果、前年度の健幸すぽっとのびのび苑に続き、西山公園グリーンハウス、長岡第三小学校にてZEB Ready建築物として認証を受けることができました。

課題等

・既存公共施設の多くは、躯体の老朽化が進んでいるため、太陽光パネルなどの再生可能エネルギーを生み出す設備を新たに設置し、ゼロカーボン化を実現できる施設はほとんどありません。公共施設の長寿命化の計画を進める際には、木材や地下水といった資源の有効活用を行うとともに、総合的な環境性能に配慮した整備手法や環境価値のある非化石証書の購入などCO_2フリー電力を検討することが必要です。

5年間の総括

A（総括）

・公共施設を新たに整備する際に、第三期環境基本計画に基づき、施設の特性を踏まえつつ、再エネの導入を積極的に進めるとともに、計画段階からZEBの実現可能性を検討した結果、目標（2施設）を上回る結果（4施設、ゼロカーボン化：1施設、ZEB Ready：3施設）となりました。
・本計画を進めるにあたり、公共施設の老朽化など施設ごとの課題を整理し、引き続き実現可能な施設の整理及び手法検討を行います。

分野	52	資源循環	通番 101
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標		市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいっそう進んでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
一般廃棄物等の適正処理及び減量化啓発事業	一般	4	2	1	710,091,876	環境業務課

事業の概要

長岡京市一般廃棄物処理基本計画に基づき、生ごみ、紙ごみ、プラスチックごみを中心に更なるごみの減量とリサイクル推進、食品ロス削減のための啓発活動を実施します。また、保育所や小学校への出前授業を通して、資源や食べ物を大切にする心を育てます。家庭系一般廃棄物においては、指定ごみ袋制度を継続し、適正排出の促進やごみの排出自体を抑える意識を高め、ごみの減量を進めていきます。また、事業系一般廃棄物においては、事業系ごみ減量のしおり、減量計画書の提出、展開検査を通した啓発等により、ごみの減量を進めていきます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標①	1人1日当たり収集ごみ量（家庭系）					単位	g/人・日
現状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
535.4（令和元年度）	目標	524.3	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	
	実績	491.4					

指標①	【家庭系】1人1日当たり収集ごみ量（資源ごみを除く）					単位	g/人・日
現状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
456.5（令和元年度）	目標		452.3	448.1	443.9	439.7	
	実績		393.5	374.7	367.9	363.1	

指標②	1日当たり搬入ごみ量（事業系）					単位	t/日
現状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
17.7（令和元年度）	目標	13.7	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	
	実績	17.7					

指標②	【事業系】1日当たり搬入ごみ量（市外からの搬入を除く）					単位	t/日
現状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
16.7（令和元年度）	目標		16.5	16.3	16.2	16.1	
	実績		16.2	15.7	15.7	15.9	

・不要品一括査定サービス「おいくら」及び地域の情報サイト「ジモティー」と連携し、引き続きリユースの啓発を行いました。
・リユースショップ実行委員会によるリユースショップを環境フェアで実施し、829品の再利用につながりました。
・保育所、小学校、中学校で給食調理くずリサイクル事業を実施しました。
・食品ロス削減を推進するため、市役所玄関ロビーにてフードバンク長岡京によるフードドライブ（食品寄付活動）を行い、1,091個の食品寄付を受けました。
・食品ロス削減やごみの減量、適正排出について、保育所、小学校で出前授業を行いました。
・長岡京市一般廃棄物処理基本計画の見直しを行うため、ごみの組成調査を行いました。
※令和3年度の目標値は平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画による。

小学校でのごみ出前授業

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	ごみの総量	令和3年2月から指定ごみ袋制度を導入したことにより、令和3年度に大きく減少し、その後も減少傾向が続いています。	48

達成度合	達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	・令和7年度の家庭系1人1日当たり収集ごみ量（資源ごみを除く）は363.1g/人・日となり、目標より収集量を減らすことができました。 ・令和7年度の事業系1日当たり搬入ごみ量（市外からの搬入を除く）は15.9t/日となり、目標より搬入量を減らすことができました。

課題等

・家庭からの1人1日当たりの収集ごみ量は目標を達成していますが、増加に転じないよう、継続的な啓発を行う必要があります。また、転入者への排出ルールの周知が必要です。
・事業所からの搬入ごみ量は、目標を達成していますが、経済活動に応じて今後増加する可能性があるため、継続して啓発が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標（減量化、再資源化、最終処分量削減）に向けて、3つのコンセプト（減らす、育てる、考える）に基づき、ごみ減量施策を実施しました。
・指定ごみ袋の導入をはじめ、リユース促進に係る民間事業者との連携や、食品ロス削減を目的としたフードバンク長岡京への支援を通じて、上記目標を達成できました。

分野	52	資源循環	通番 102
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標		市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいっそう進んでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
分別によるリサイクル推進事業	一般	4	1	8	8,168,258	環境業務課

事業の概要

資源の有効活用と減量意識の高揚を図るためには市民参加型のごみ減量施策が重要であるため、自治会や各種団体など地域レベルの活動に対する支援を行います。また、古紙類のリサイクルを推進するために、市民にとって利便性の高い拠点回収の環境整備を図ります。あわせて指定ごみ袋制度を継続し、適正排出の促進やごみの排出自体を抑える意識とリサイクル意識を高め、再生利用率の向上を目指します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		再生利用率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
13.4（令和元年度）	目標	21	13.8	14.3	14.9	15.4	
	実績	14.8	15.2	14.9	14.6	14.3	

・助成金交付等で古紙回収を行う団体を支援し、1,325tの古紙等の回収につながりました。さらに古紙回収ステーションである中央公民館の回収コンテナを増設し、211tの古紙等を回収できました。
・サントリーグループと長岡京市・向日市・大山崎町・乙訓環境衛生組合で使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」リサイクル事業を引き続き実施しました。
・適正な資源物の排出を促進するため、分別ステーションでの指導等を行いました。
・分別排出機会を増やすため、資源物の祝日収集を継続しました。
・適正排出を促進するため、小型充電式電池の拠点回収場所を2カ所増設しました。
※令和3年度の目標値は、平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画による。

中央公民館の古紙回収ステーション

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	リサイクル率	令和3年2月より家庭からの可燃ごみに指定ごみ袋制度を導入したことで、ごみの適正排出が進み、それまで低下傾向であったリサイクル率は上昇傾向にありましたが、新聞購読世帯の減少などにより令和5年度に減少に転じました。	47

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・再生利用率は14.3%となり、目標値を1.1ポイント下回りました。 ・古紙等の回収量は前年度から3%（46t）減少し、再資源化量も前年度から4%（56t）減少しています。新聞購読世帯の減少等により地域での古紙回収量は減少傾向であり、ごみの総量の減少率1%（236t）よりも再資源化量の減少率が大きかったため、再生利用率は低下しました。

課題等

・資源物を適切に排出しやすい環境の維持が必要です。
・リサイクル率上昇のためには事業者への古紙等拠点回収場所の周知が必要です。
・小型充電式電池や小型家電等の適正排出について引き続き周知が必要です。
・資源物として再資源化できる古紙や容器包装プラスチックなどが、可燃ごみとして多く排出されています。

5年間の総括

A（総括）

・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標（減量化、再資源化、最終処分量削減）に向けて、3つのコンセプト（減らす、育てる、考える）に基づき、ごみ減量施策を実施しました。
・分別排出機会を増やすため、資源物の祝日収集の実施や、小型充電式電池の回収拠点の整備を行いました。
・新聞購読世帯の減少により、古紙拠点回収場所の回収量が年々減少していることから、リサイクル率が減少しています。

分野	53	環境共生	通番 103
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
西山における森林保全活動の推進・啓発事業	一般	6	2	1	1,500,000	農林振興課

事業の概要

西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、多様な主体による森林保全活動の推進と啓発を促進します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		森林ボランティア団体数				単位	団体
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
23（令和元年度）	目標	23	23	23	23	23	
	実績	22	23	23	23	22	

・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や自然環境調査、小学校で丸太切り体験を実施し自然体験学習の補助を実施しました。
・子どもたちの環境教育の推進・充実を目的とした「西山ファミリー環境探検隊」を実施しました。木材の伐採、その材を活用した木工キットの作成を行うワークショップを実施し、木材利用の普及啓発を行いました。また、ボランティア団体の安全対策を目的としたボランティア養成講座を実施しました。

ボランティア養成による安全講習

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
評価指標	西山の森林整備面積・整備率	・西山森林整備構想に基づき、今後も環境の側面や公益的な観点から西山の森林機能を維持するために、継続的に森林整備を進めていく必要があります。	49

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・ボランティア団体に対し継続して活動が行えるよう助言を行いました。 ・ボランティア養成講座を開催し、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性を構築することができました。また、安全講習を実施し、森林整備の際の安全に対する意識の向上を図りました。 ・木材の伐採から利用まで体験するワークショップを実施し、利用の促進、普及啓発を行いました。 ・企業1社が活動を終了したため、22団体となり目標達成には至りませんでした。

課題等

・西山森林整備推進協議会の活動内容や長岡京市の森林整備等をPRし、行事への参加を促すなど関心を高める必要があります。
・会員の高齢化と後継者不足に悩んでいるボランティア団体が多いため、活動内容のPRやボランティア養成講座を実施し新規ボランティア会員の確保を支援する必要があります。

5年間の総括

A（総括）

森林ボランティア団体の増加を目指し、これまでボランティア行事や養成講座を実施してきました。しかし、企業の事情により活動を終了されたため、目標達成には至りませんでした。また、市民団体では高齢化が進み、活動を維持することが難しくなっています。こうした課題に対応するため、未経験者であっても森林整備に興味を持つ方と既存のボランティア団体をつなぐ取組が必要です。
継続してボランティア養成講座等を実施するとともに、西山森林整備推進協議会の活動を広く周知するため、ホームページやインスタグラムなどを活用した広報を行い、市民に西山への関心を持ってもらうよう働きかけていきます。

分野	53	環境共生	通番 104
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
西山における森林整備推進事業	一般	6	2	1	19,625,862	農林振興課

事業の概要

西山の森林機能を維持・回復させるため、人工林の間伐や二次林の改良、拡大竹林の整備、危険木の処理を進めるとともに、京都西山再生プロジェクトにおいて生物多様性に富んだ森づくりに取り組みます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	西山森林整備面積（累計）					単位	ha
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
306.73（令和元年度）	目標	320	328	336	344	352	
	実績	320	329	337	343	351	

・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計7.39ha実施しました。
・人工林については、4.81haの間伐を実施し、天然林改良1.37haの整備を行いました。
・竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す線的整備と点在する竹の除伐を1.21haを実施しました。
・台風等に起因する倒竹数百本及び風倒木等の危険木伐倒処理を実施しました。
・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」では、昨年度に引続き、130本の新規植樹を行い合計682本になりました。
・民間企業、市内公共施設や教育施設に働きかけ、民間事業者の事務所の内装材・中学校の学習机の天板や教材等に西山産林が活用されました。

拡大竹林除伐事業

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
評価指標	西山の森林整備面積・整備率	・西山森林整備構想に基づき、今後も環境の側面や公益的な観点から西山の森林機能を維持するために、継続的に森林整備を進めていく必要があります。	49

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・木材利用を促進するため利用間伐を中心に森林整備を実施しました。効率的に森林整備を進め目標をほぼ達成できました。 ・市内公共施設や民間企業に働きかけ、市内産木材の利用が促進されました。

課題等

・森林整備を進めていくとともに、搬出した木材を公共施設等に積極的に活用し、広く市民に西山をPRし、さらに学校教材等にも西山材を活用し若い世代にも興味を持ってもらう必要があります。
・効果的に放置竹林対策を実施できるよう、伐採時期や整備箇所の選定を専門業者と協議し、整備方法等を検討する必要があります。

5年間の総括

A（総括）

森林整備面積の累計が350.75haに達し、西山全体の約45%（重複を含む）の整備ができました。森林整備は一度実施すれば終了するものではなく、継続が必要です。
現在、目標数値をほぼ達成していますが、人件費や原材料費が高騰している中、持続可能な整備を行うために効率的な森林整備を実施していくことが必要です。

分野	53	環境共生	通番 105
施策	532	地域環境力の向上	
5年後の目標		“環境の都”長岡京の実現に向け行動する人の輪が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
環境都市宣言啓発推進事業	一般	4	1	8	685,134	環境政策室

事業の概要

市民・団体・事業者等それぞれの主体が、その役割と責任を認識し、多方面で協働しながら、環境にやさしいライフ・ビジネススタイルの輪を広げ、持続可能な社会をつくります。そのため、環境に関する様々な学習会等を通じた啓発活動を実施するとともに、地域の中で環境を考える学び合いの機運を創出し、環境問題の「自分ごと化」を図ります。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		環境イベント・行事への参画主体数				単位	者
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
26（令和2年度）	目標	38	39	39	40	40	
	実績	33	39	43	44	40	

・環境フェアと農業祭を合同で開催し、環境と関係性の深い「農」と併せてPRすることで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、分野横断的な啓発を行いました。
・VRゴーグルを用いて気候変動後の未来を疑似体験してもらうことで、気候変動の危険性及び脱炭素化について啓発を行いました。
・図書館での展示「まちとしょ」では、農業祭と環境フェアの時期に合わせ、次世代エネルギーに関する書籍等を集めた展示を行いました。
・星空観察会及び探鳥会を各1回開催し、大気汚染や光害に関する理解を深めるとともに、自然に親しむ事業を通じて、環境保全意識の向上を図りました。

VRゴーグルを体験する参加者

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	—	—	—

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・環境フェアを農業祭と合同で開催することで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、縦割りの視点にとらわれない、分野横断的な啓発を行うことができました。 ・VRゴーグルを用いた気候変動の体験は、約180名が参加し、環境問題を自分ごととして考える機会を提供することができました。 ・多様な業者との協働を通じて、環境啓発の機会が大きく広がりました。これにより「市民（団体や事業者）から市民へ」の啓発の活発化及び環境問題の自分ごと化に資するものと考えます。

課題等	・環境問題は長期的な課題であり、問題解決・対応に関して継続的に行う必要があります。身近な自分ごとの課題として捉えてもらうためには、「行政から市民へ」の啓発だけでなく、「市民から市民へ」の啓発の機会を強化するとともに、啓発の仕方にも工夫が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・環境イベントや行事に参画した団体数は、概ね目標を達成することができました。多くの団体と連携し、イベント等を通じて環境問題への意識を「市民から市民へ」と広げる取組が定着しました。
・今後の課題として、市民一人ひとりが自分ごととして、環境問題を捉えて取組に参加できる仕掛け作りが必要です。令和8年度より開催する長岡京若者気候会議を通じて、環境問題や気候変動が自分ごと化できるよう啓発を行っていきます。

分野	54	都市環境	通番 106
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
無電柱化推進事業	—	—	—	—	—	道路・河川課

事業の概要

阪急長岡天神駅周辺や景観重点地区である八条ヶ池、景観沿道軸となる天神通りとアゼリア通り、府道西京高槻線の無電柱化を府と共に推進します。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		無電柱化事業の進捗				単位	—
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
—	目標	市役所前区間の検討	市役所前区間の工事着手	市役所前区間の工事推進・完成	八条ヶ池区間の検討	八条ヶ池区間の検討	
	実績	市役所前区間の検討	市役所前区間の工事実施	市役所前区間の工事完成	八条ヶ池区間の検討	八条ヶ池区間の検討	

・八条ヶ池区間の無電柱化に向け、京都府と協議を行いました。

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	—	—	—

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・八条ヶ池区間の無電柱化に向け、京都府と協議を行いました。
課題等	・八条ヶ池区間の無電柱化を行うにあたり、引き続き京都府と協議が必要です。		

5年間の総括

A（総括）

・令和5年に市役所前区間の無電柱化は完了しました。
・八条ヶ池区間の無電柱化を推進するため、引き続き京都府と協議していきます。
・大山崎大枝線については、長岡京IC～長岡天満宮前交差点までの区間の無電柱化事業の早期完了を京都府へ要望します。

分野	54	都市環境	通番 107
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
西国街道再整備事業	—	—	—	—	—	道路・河川課

事業の概要

平成12年度より整備された西国街道北部地域は、経年劣化による石畳の破損により、市民の日常生活に支障をきたしています。また、維持管理費については、年々増大しています。
よって、「長岡京市景観計画」に基づく旧街道軸で、景観に配慮した石畳の再整備を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		北部西国街道延長（L=1050m）の整備率				単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
—	目標	道路設計業務	10.5	41.0	70.5	100.0	
	実績	道路設計業務	28.6	68.6	100.0	-	

—

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	—	—	—

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	—
課題等	—		

5年間の総括

A（総括）

・石畳の代わりに半たわみ性舗装を採用し、景観へ配慮しました。当初は4ヵ年での完了を予定していましたが、地元の協力のおかげで3ヵ年で再整備が完了しました。

分野	54	都市環境	通番 108
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
みんなが憩い楽しめる魅力ある公園づくり事業	一般	8	4	4	222,027,035	公園緑地課

事業の概要

幼児から高齢者までの多様な年齢層の人たち、障がいのある人もない人も誰もが楽しみ、交流できる公園づくりに向け、西山公園第3期整備と民間と連携した長岡公園の再整備を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標①	西山公園第3期整備計画の進捗					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
基本設計（令和2年度）	目標	測量・実施設計	用地買収	配水池解体工事	整備工事	整備工事完了	
	実績	測量・実施設計（新池護岸部分完了）	用地買収・新池護岸整備工事・実施設計	配水池解体工事・駐車場実施設計完了	広場整備工事	広場整備工事完了・駐車場工事着手	

指標②	長岡公園再整備の進捗					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標			設計	整備工事完了	―	
	実績			設計	整備工事	整備工事完了	

指標①
・西山公園（いろどり広場,第一駐車場）の整備工事が完了しました。
・西山公園第二駐車場整備工事に着手しました。
指標②
・長岡公園（第一期）再整備工事が完了しました。

西山公園（いろどり広場）

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市面積に占める公園面積の割合	開発及び帰属に伴い、令和7年度に2箇所の公園が設置されました。今後も開発による提供公園により増加傾向にあります。	51

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	指標① ・西山公園（いろどり広場,第一駐車場）整備工事が完了し、市民の憩いの場となりました。 ・西山公園第二駐車場整備工事については、地盤改良工事が必要となったため、令和8年度まで工期が延伸する見込みです。 指標② ・長岡公園（第一期）の再整備が完了し、誰もが安心して楽しめる公園へ生まれ変わりました。 ・本市2例目となるインクルーシブ公園が供用開始されました。

課題等

指標①
・駐車場の早期完成に向けて、工事受注者と現場工程の短縮について調整する必要があります。

5年間の総括

A（総括）

指標①
・配水池跡地をはじめとする西山公園の未整備区域の一部を「いろどり広場」として整備しました。
・地盤改良工事の必要性から、第二駐車場の整備が未完了となりました。引き続き整備を進め、早期完成を目指します。
指標②
・㈱村田製作所との包括連携協定により進めてきた長岡公園（第一期）の再整備が完了しました。
・市民ニーズを踏まえ、授乳室を完備した休憩所「fuRari」や遊び場を整備したことで、子育て世帯をはじめ幅広い世代の方々が楽しめる場へと生まれ変わりました。

分野	54	都市環境	通番 109
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
市民協働緑化事業	一般	8	4	4	17,054,000	公園緑地課

事業の概要

公益財団法人長岡京市緑の協会と共に、みどりのサポーター制度の促進を図り、市民による公園等の緑化及び環境美化活動を進めます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		みどりのサポーター活動団体数				単位	団体
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
100（令和元年度）	目標	106	109	112	115	118	
	実績	110	109	106	107	103	

・令和8年1月に「第20回みどりで笑顔のつどい」を開催しました。20回の節目を迎え、サポーターや関係者に加え、一般参加者を合わせた95名の参加のもと、活動10年表彰、地元企業の取組発表、節分に合わせたフラワーアレンジメント企画を実施しました。
・（公財）長岡京市緑の協会は、緑の講習会を年5回、出前講座を年6回開催し、合計192名の参加がありました。

第20回　みどりで笑顔の集い

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	みどりのサポーター登録団体数	高齢化に伴い活動終了する団体が多いです。	50

達成度合	達成状況
B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	・みどりのサポーターは、令和7年度末時点で103団体、1,158名の登録があり、目標は概ね達成しました。

課題等

・会員の高齢化や後継者不足が進む中、登録人数が減少する可能性があります。
・みどりのサポーター制度の認知度が限定的なため、SNSを利用したPR方法を検討する必要があります。

5年間の総括

A（総括）

・第2次みどりの基本計画の施策としてみどりのサポーター制度の推進を掲げ、その認知度向上と新たな担い手確保に向けて、はっぴいバスへの広告掲載やホームページでの制度のPR、広報紙や公共施設へのチラシ配架、長岡京市広報板やデジタルサイネージへの募集チラシの掲載など周知活動を実施しました。また、市民の関心を高めるため、令和4年度から「みどりで笑顔のつどい」に一般の方も参加していただき、地元企業から提供された草刈機を活用して負担軽減にも取り組みました。
・みどりのサポーターにおいては、高齢化が進む中で支援の必要性が増しており、またサポーター数の減少が課題となっています。

分野	54	都市環境	通番 110
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
公園施設長寿命化事業	一般	8	4	4	58,703,700	公園緑地課

事業の概要

公園施設を快適かつ安全に使っていただくため、公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の更新や修繕を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		公園の施設整備数				単位	公園
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
17（令和2年度）	目標	25	28	37	43	58	
	実績	25	32	39	52	63	

・八ノ坪公園ほか10公園で長寿命化対策工事を実施しました。

八ノ坪公園

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	市面積に占める公園面積の割合	開発及び帰属に伴い、令和7年度に2箇所の公園が設置されました。今後も開発による提供公園により増加傾向にあります。	51

達成度合		達成状況
A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）		・八ノ坪、深田、深田南、馬場1号、横ケ端東、更ノ町中、滝ノ町2号、高台3号、泉が丘西、河陽が丘二丁目東、天神二丁目公園の長寿命化対策工事を実施しました。 ・老朽化した遊具41基を撤去し、新たに遊具を31基設置しました。

課題等

・公園施設の安全性を確保するためには、定期的な遊具等の健全度調査や日常点検を実施し、その結果を踏まえて、維持管理計画の補完・修正を適宜行う必要があります。
・遊具に関する市民のニーズを把握することが必要です。

5年間の総括

A（総括）

・市民が安全で安心して利用できる公園を目指し、長寿命化計画に基づいて老朽化した公園施設の撤去や更新を進めることができました。
・市民ニーズが高い「身近な公園のリニューアルや利用の促進」に応えるため、アンケートを通じて地域の声を聴き、満足度の高い公園施設を整備することができました。
・事業の実施にあたっては、国の補助金を活用することで、財政負担を抑えながら進めることができました。

分野	54	都市環境	通番 111
施策	543	生活環境の保全	
5年後の目標		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
環境監視事業	一般	4	1	7	4,117,566	環境政策室

事業の概要

大気・水質、騒音などの状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。

令和7年度の取組

D（取組）

指標	小畑川、小泉川の透視度：30cm以上、BOD：2mg/L以下、PH：6.5～8.5の維持状況					単位	―
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：7.9 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：7.9 【R2年2月時点数値】	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	
	実績	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：1.1mg/L PH：7.5 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L PH：7.8	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L PH：7.7 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：8.0	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：0.7mg/L PH：8 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.6mg/L PH：8.0	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：1.2mg/L PH：7.8 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.6mg/L PH：8.1	小畑川（井ノ内橋）透視度：30cm以上 BOD：1.4mg/L PH：7.6 小泉川（西代橋）透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/L以下 PH：8.2	

・大気、水質、騒音の検査を実施し環境基準と比較しました。
・地下水及び河川の調査を15か所で実施しました。
・大気調査は67か所で実施しました。
・環境騒音及び自動車騒音の調査を31か所で実施しました。
・それぞれの調査で得られた結果を国や京都府などに報告し、また関係部署とも情報共有しました。

小畑川

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
評価指標	小畑川・小泉川の主要河川水質指標	・小畑川上流には流域人口5万人を擁する洛西ニュータウンがありますが、下水道はほぼ完備しており、水質に影響はないと思われます。河川の浚渫工事等の影響を受け透視度が下がる可能性はあります。 ・小泉川上流は一部砂防指定地となっており、砂防工事等の影響を受ける可能性があります。 平成26年度から令和6年度において環境基準はクリアしており良好な水質を維持しています。	53 54

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・河川調査では、6河川8地点で年4回調査を行ったところ延べ238項目が基準値内でした。 ・地下水の水質調査では、農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められましたが、超過した項目は、地質といった自然由来の影響で超過することがあります。農業用の水質基準は満たしていました。 ・大気調査は、環境基準の超過はありませんでした。 ・騒音調査では、3か所で一時的に環境基準を超過していましたが、自動車騒音については道路交通法に基づく措置が必要となる要請限度は超過していませんでした。

課題等	・大気、水質、騒音など環境保全の分野は範囲が広いため、広い視野と専門的な知見、技術を継承しながら取り組むことが必要です。 ・環境基準を超過した項目がある地点では、生活環境への影響を考慮し経過観察が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・環境保全意識向上のため、関係機関と協力しながら市民や事業者への啓発活動を行い、さらに生活環境の監視を実施して状況に応じた啓発や指導を行うことで、指標目標を達成しました。
・大気、水質、騒音、振動等について環境基準に照らし評価を行った結果、概ね基準内に収まっていました。環境基準を超過した項目、地点については京都府や関係部署にも報告しました。
・良質な水資源等の保全を確保するため、継続的な監視が必要です。

分野	55	水資源	通番 112
施策	551	水資源の保全	
5年後の目標		企業・市民の理解と協力のもと、地下水の適切な利用により、良質な水資源が保全・継承されている。	

概要

	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課
P(概要)	水道の安定供給に係る水資源保全事業	会計 款 項 目 公営企業会計	－	水道施設課

事業の概要

地下水を将来にわたり、水道水源として利用するために、地下水を採取する井戸(取水井戸)の保全及び地下水の水質管理を適切に行います。

令和7年度の取組

D(取組)

指標①	取水井戸の稼働本数					単位	本
現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
6(令和元年度)	目標	6	6	6	6	6	
	実績	6	6	6	6	6	

指標②	水道水源の水質検査(地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査)回数					単位	回／年
現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
12(令和元年度)	目標	12	12	12	12	12	
	実績	12	12	12	12	12	

・全取水井戸について職員による巡視点検を行いました。
・全取水井戸について職員による水位測定を毎月行いました。
・取水井戸について洗浄、浚渫、水中ポンプ入替、逆止弁修繕を行いました。
・全取水井戸について水質検査(地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査)を毎月行いました。
・導水管調査を行いました。
・取水井戸等用運用基準に基づく運用を行いました。

取水井戸洗浄の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C(評価)

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	一般向け府営水ブレンド	府営水ブレンド率50%の維持を目標としていますが、水質管理の観点から一部取水井戸を休止したことにより府営水ブレンド率が上昇しています。	57

達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・取水井戸の水位測定を毎月行うことで、地下水の適正利用が可能となりました。 ・稼働取水井戸は、水質検査結果を受けた取水井戸等運用基準に基づく適正な運用を行いました。 ・水質検査を毎月(12回/年)行うことで、水道水源として利用するための安全性を確認することができました。(検査結果は、本市ホームページに掲載しています)

課題等

・水道水の安定供給に必要となる揚水量の確保が必要です。
・取水施設の老朽化への対策が必要です。
・水道水源として利用するための地下水水質を維持する必要があります。

5年間の総括

A(総括)

・取水井戸の水位測定を毎月行うことで、地下水の適正利用が可能となりました。
・水質検査を毎月(12回/年)行うことで、水道水源として利用するための安全性を確認することができました。
・導水管調査の結果、漏水はありませんでしたが管内の一部にスケール等の堆積物が確認されました。今後、導水管内のスケール等の調査が必要です。

分野	55	水資源	通番 113
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
低廉な水の安定供給事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	上下水道総務課

事業の概要

地下水と府営水道の二元水源により安全で安心な水道水を安定供給することと併せて、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標①	水道水における府営水ブレンド率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
50.8（令和元年度）	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	実績	4月～9月 50.0 10月～3月 100.0	4月～5月 100.0 6月～3月 51.4	51.2	53.3	58.0	

指標②	有収率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
95.85（令和元年度）	目標	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	
	実績	96.5	96.3	96.3	94.7	92.8	

・地下水の水質管理強化のため新たに定めた取水井戸等運用基準に基づき取水井戸を一部停止し府営水道を増量したため、市民向けの府営水ブレンド率は58.0%となりました。
・主要基幹管路の耐震化や計画的な更新、老朽化した配水管の布設替工事を実施しましたが、漏水の影響により有収率は92.8%となりました。目標を下回りましたが、類似団体や全国平均と比較し、高い有収率を確保できています。
・北給水区域を対象に緊急漏水調査を行い、有収率の向上に努めました。

漏水調査の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	上下水道料金の推移	・水道料金は令和2年10月から引き下げを行い、下水道使用料は令和3年10月から引き上げを行いました。 ・京都府内での上下水道料金比較では、24市町の中で真ん中よりやや下に位置しています。	56

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・PFOS及びPFOAの数値が国の暫定目標値を超えた取水井戸を一部停止し、取水量が低下したことで、市民向けのブレンド率目標である50%を下回りましたが、府営水との二元水源の活用により、安全・安心な水道水の安定供給は引き続き確保されています。 ・有収率については、計画的な管路の更新、速やかな漏水対応修繕を実施したものの、目標値を下回る結果となりました。

課題等

・各取水井戸において毎月水質検査を実施し、水質管理を強化するとともに、その動向を継続的に注視する必要があります。
・法定耐用年数の超過が見込まれる管路等は、上下水道ビジョンの投資・財政計画に基づき、管路の老朽化の程度及び重要度等を整理し、優先順位を見直しながら計画的な更新を行う必要があります。
・有収率の低下が続いていることから、引き続き漏水調査を実施する必要があります。

5年間の総括

A（総括）

・水道水における府営水ブレンド率は、東第2浄水場耐震補強他工事の期間を除き、概ね目標である50%付近で供給が行われてきました。令和7年度には、PFOS及びPFOAの数値が国の暫定目標値を超えた取水井戸を一部停止したことにより、府営水ブレンド率が上昇しましたが、今後も水質の動向を注視し、安全で安心な水道水の供給に努めます。
・有収率は目標である95%を概ね達成しましたが、令和6年度以降、低下傾向がみられることから、引き続き漏水調査を進めていきます。令和8年度は人工衛星による漏水調査を実施します。

分野	55	水資源	通番 114
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
水道施設の耐震化事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	水道施設課

事業の概要

自然災害や経年劣化による水道施設の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも時間を要します。自然災害等に負けない強靭な水道施設とするため、計画的に耐震化を進めます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標①	上水道基幹管路耐震化率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
34.1（令和元年度）	目標	37.3	37.3	37.5	38.5	39.3	
	実績	36.0	36.5	36.6	37.2	37.4	

指標②	浄水施設（東第2浄水場）の耐震化率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
―	目標	0	100				
	実績	0	100				

・東ポンプ場解体に向け、基幹管路の更新工事を城の里及び勝竜寺地内において実施しました。

基幹管路

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	水道基幹管路の耐震化率	令和2年度から長岡京市上下水道ビジョンに基づき耐震化を進めています。	55

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・東ポンプ場の解体に伴い、周辺基幹管路の更新工事を実施しましたが、東ポンプ場機能停止による水運用の変更を考慮しながら実施したため、目標値の達成には至りませんでした。

課題等

・長岡京市上下水道ビジョンや新たに策定した長岡京市上下水道耐震化計画や鋳鉄管更新計画に基づき、避難所等に接続する管路を優先的に更新していきます。
・施工にあたり、長い期間と多額の費用が必要となることや、交通状況等を始め多くの外的制約が発生します。また、工事に対する周辺住民の理解と協力が不可欠となります。

5年間の総括

A（総括）

・毎年更新工事を進めてきた結果、基幹管路の耐震化率は着実に向上しています。今後も効率的な施工と水運用への影響を考慮しながら、周辺住民の理解と協力のもと、関係各所と協力して目標値の達成に取り組んでいきます。

分野	55	水資源	通番 115
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
鉛製給水管の取替促進事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	水道施設課

事業の概要

蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。

令和7年度の取組

D（取組）

指標		鉛製給水管残存率				単位	%
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
9.0（令和元年度）	目標	8.3	7.5	6.8	6.0	4.8	
	実績	6.0	5.4	4.6	4.2	3.7	

・本市上下水道ビジョン（令和2年度～11年度）に基づき、市内一円における給水管取替工事、管路更新工事に伴う取替及び修繕等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。
・取替工事の施工範囲は、鉛製給水管所有者の敷地内に及ぶ場合が多く、事前に所有者と協議し、円滑に取替工事が進むよう調整しました。
・鉛製給水管探知機を活用し、地下に埋設された鉛製給水管の位置を把握することで、迅速かつ効率的な取替工事を実施しました。

鉛製給水管

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・取替工事場所を選定する際、鉛製給水管所有者が隣接する箇所を優先することで、効率的に取替を進め、目標値を達成することができました。 ・鉛製給水管所有者との協議では、施工の時間帯、敷地内の掘削跡の復旧方法等について丁寧に説明することで、所有者にご理解いただき、取替工事を円滑に進めることができました。 ・鉛製給水管探知機を活用することで、迅速かつ効率的な取替工事を実施することができました。

課題等

・交通量の多い道路や、水路下等を通る鉛製給水管など、難工事箇所が残存しているため、取替工事の完了までに時間を要します。
・取替工事は鉛製給水管所有者の敷地内に及ぶことが多く、所有者の理解と協力が必要です。

5年間の総括

A（総括）

・鉛製給水管の残存件数は着実に減少しているものの、近年その減少ペースが鈍化してきています。本市水道ビジョンで掲げる「令和11年度鉛製給水管解消」を達成するには、取替工事を加速させる必要があります。
・鉛製給水管取替箇所が市内に点在していますが、集合住宅地や隣接箇所を抽出し、効率よく取替工事を進めていきます。
・鉛製給水管取替を加速させるため、広報活動の強化を行います。本市の鉛製給水管取替事業に関する情報をホームページや広報紙を活用して発信することで、市民の方々へ周知を図り、協力を促していきます。

分野	55	水資源	通番 116
施策	553	下水の適正処理	
5年後の目標		下水道施設・設備の更新が着実に進み、下水の適正な処理によって、公共用水域の水質が保全されている。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目	決算額（円）	担当課
下水道長寿命化事業	会計 款 項 目 公営企業会計	―	下水道施設課

事業の概要

計画的かつ効率的に管路の管理を行うため、ストックマネジメント計画及び上下水道ビジョンと整合をとりながら全管路の状態を計画的に点検します。点検結果により不具合が見つかった箇所の調査を実施し、その調査結果を基に改築・更新・修繕を計画的に進めます。

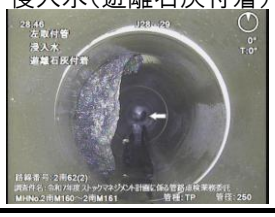
令和7年度の取組

D（取組）

指標		管きょの点検率				単位	%
現　状 （計画策定時）	年度	3	4	5	6	7	
5.97（令和元年度）	目標	ストックマネジメント計画の変更	13.35	17.07	20.79	24.51	
	実績	ストックマネジメント計画の変更	13.45	17.08	20.80	24.53	

・布設年度の古い陶管を優先対象として約8.63kmの点検を実施し、管きょの全延長に対する点検率は24.53%となりました。

侵入水（遊離石灰付着）



施策の「5年後の目標」に対する評価

令和7年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・8.63kmの点検を実施しました。

課題等	・ストックマネジメント事業全般において、国費等の財源を確保する必要があります。 ・異常が確認された箇所は詳細調査を実施し、対策が必要な箇所は改築・修繕を行う必要があります。

5年間の総括

A（総括）

・ストックマネジメント計画に基づき、布設年度の古い陶管を優先対象とし、点検を実施しました。